



link  
we like  
international  
kumamoto

## 未来へ

熊本地震で被災した多くの外国人から、「家が壊れ資産を失う等自分たちより深刻な情状にある日本人が助けてくれたことは驚きであり感謝しきれない。」「震災後、近所の人たちが、“大丈夫”“元気”と声をかけてくれることが嬉しい。」と聞きます。災害時に外国人を含め弱者を置き去りにしない社会づくりに向け、「地域の力」の重要性が再認識された瞬間です。

一方、彼らは、熊本大学の避難所運営に携わり、高齢者家庭へ物資を配り歩き、炊き出しで母国料理を振る舞う等々、地域を支える存在でもあり、「多文化パワー」が発揮されました。

私たちは、豊かな社会を未来へ持続していく責任において、多様な人たちがそれぞれの弱点も含め違いを認め、必要とし合える存在になっていく努力をすることが大切です。「地域の力」と「多文化パワー」のつながりを日頃から構築していくことが豊かな未来へのキーワードになるのではないでしょうか！



## 編集・発行

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

住 所 〒860-0806

熊本市中央区花畠町4-18

熊本市国際交流会館

電 話 096-359-2121

F A X 096-359-5783

e-mail pj-info@kumamoto-if.or.jp

U R L <http://www.kumamoto-if.or.jp/>



2016 熊本地震外国人被災者支援活動報告書(第二版)

# 多文化共生社会のあり方 ～発災から半年、動き出したこと～



○2016年11月、二の丸公園から見る熊本城、観光で訪れる  
方々の数が回復してきました。

○民間団体(コムスタカ～外国人と共に生きる会)と  
外国人コミュニティーの協力で国際交流会館玄関前で  
毎日行われた炊き出し



# 2016 熊本地震外国人被災者支援活動報告書 (第二版)の発行にあたって

熊本地震発災から半年が経過したタイミングの10月10日に「熊本地震！外国人被災者支援活動報告会」を開催し、熊本県内外より80名以上のご参加をいただきました。右記の趣旨で当該報告書を1000部発行しました。熊本市国際交流会館に開設した外国人避難対応施設や九州地区の地域国際化協会連絡協議会と多文化共生マネージャー全国協議会の協力を得て設置した災害多言語支援センターの運営について、また、運営過程で浮かんできた外国人被災者の課題へ対応するために開催した生活相談会の状況について報告しました。

全国いたるところで地震が多発、在住外国人に加え海外からの旅行者の急増する中、各自治体では外国人への災害時対応が急務となり、熊本地震での外国人支援の実績と課題を全国20カ所以上で報告しました。

報告書（第一版）の在庫がなくなる一方、熊本地震での外国人支援に関する報告依頼が依然として多くあります。質問・問い合わせが多い災害時外国人支援への国際交流協会の役割や自治体との連携についてNPO法人多文化共生マネージャー全国協議会代表理事の田村太郎氏にご寄稿いただくとともに、前述の報告会の実施報告とKIFで発災から半年が過ぎ、動き出したことを追記して、2016熊本地震外国人被災者支援活動報告書の第二版をここに発行いたします。

2017年1月29日

## 目次

報告書第二版の発行にあたって	P1
多文化社会の今後に向けて	P2
(NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会代表理事 田村太郎氏)	
熊本地震の状況	P3
半年経って	P4
支援活動の概略①（フェーズ1）	P5
支援活動の概略②（フェーズ2）	P6
外国人避難対応施設運営	P7～9
災害多言語支援センター運営	P10～14
・避難所巡回	P11～12
・情報の多言語化	P13～14
外国人被災者への生活相談会開催	P15～16
熊本地震！外国人被災者支援活動報告会	P17
動き出した活動、国際交流協会の役割	P18
外国人被災者の声	P19
支援者の声	P20
新聞報道	P21～22
未来へ	(裏表紙)



半年が過ぎ、熊本城外の石垣復旧工事が始まりました。  
(2016年12月)

## 2016熊本地震外国人被災者支援活動 報告書の発行にあたって

今、熊本地震発災より半年が経ち学校・会社は日常を取り戻し、甚大な被害を受けた熊本城等文化財の復旧が始まりました。一方、震災で受けた恐怖が日常生活で忙殺され知らないうちにトラウマが蓄積されている方々も多く「こころ」のケアが必要となり、仮設住宅への移転ではコミュニティ維持・再生が課題となっている現状があります。

このような中、改めて、熊本地震の犠牲の方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様にお見舞いを申しあげます。

さて、今回の地震の被災者には、母国で地震を経験したことがない在住外国人や土地勘がない海外からの訪問者も多く含まれ、彼らは言語や文化の違いから、より大きな不安と恐怖を抱えました。彼らが孤立せず必要な支援が受けられるよう、当事業団では、熊本市国際交流会館で公設民営の外国人避難対応施設を運営するとともに、外国人被災者の安否確認のための避難所巡回と災害支援情報の多言語化を行う災害多言語支援センターを、九州地区地域国際化協会連絡協議会や多文化共生マネージャー全国協議会の協力を得て設置しました。当該避難対応施設の運営では、地元の民間外国人支援団体「コムスター～外国人と共に生きる会～」に炊きだし協力をいただき暖かい食事を提供することができました。

一方、多くの外国人被災者の方々が一緒に炊き出しに協力したり、高齢者住宅へペットボトルの水を配ったり「多文化パワー」に助けられました。日本全国より沢山の水・食料・ベビー用品等物資や支援金をご寄付いただくとともに、全世界よりお見舞い・励ましのメッセージをいただきました。この場を借りて感謝申しあげます。

地震大国日本では、どの地域においても地震が起きる可能性があります。今回の外国人被災者支援活動での実績や課題をまとめ、災害弱者を置き去りにしない多文化共生社会づくりを推進し、地震への備え・減災への一助になることを願い、本報告書を発行いたします。

以上  
2016年10月10日

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団  
理事長 吉丸 良治

※発災から半年、10月10日に開催した「熊本地震！外国人被災者支援活動報告会」で、総合コーディネーターをお願いしたNPO法人多文化共生マネージャー全国協議会の田村太郎代表理事に、今後に向けてメッセージをいただきました。

## 災害時に試される多文化共生社会 ～地域に求められる日頃の取り組み～

熊本地震における事業団の活動は、これまで日本社会が考えてきた災害時の外国人対応に関する期待を大きく上回る、すばらしいものでした。今後の災害では、熊本以上の活動ができるよう、準備を整えて欲しいのですが、そのためにはなぜ事業団がこのような活動を展開できたのかの要因をきちんと分析しておく必要があります。阪神・淡路大震災から各地の災害で外国人への支援活動に関わった経験も踏まえ、今回の事業団の活動から考えられる必要な備えを3つに分類してみました。



1つめは、「地域のキーパーソンとの顔の見える関係の構築」です。事業団では日本語学習支援や相談活動や、多文化共生をテーマにした活動を丁寧に、外国人住民ともに展開してきました。正直なところ、熊本では災害への備えが万全だったわけではありませんでしたが、こうした日頃からのつながりが、震災直後から外国人避難者への的確な支援を行う判断につながったのは間違いないでしょう。改めて体系的・計画的な多文化共生の推進に取り組みましょう。

2つめは行政との「絶妙な距離感」です。事業団は行政ではありませんが、設立以来、熊本市との深い関係があって事業を展開しています。同様の経緯をもつ国際交流協会は各地にあると思いますが、事業団は市からは独立して運営しつつも、校区ごとの外国人住民のデータなど、必要な情報は市と連携して共有していました。指定管理で運営する会館を「外国人対応避難所」とする判断も、市と事業団とすぐに決断しています。完全に市の組織ではこうした判断は難しかったと思いますし、完全に民間でも難しいです。公益法人制度改革や指定管理者制度などの影響で、行政と国際交流協会との距離が大きく開いてしまっている地域も多いと思いますが、いま一度、両者の役割分担や連携のあり方を検討しましょう。

3つめは「外部からの支援の受け入れへの適切な対応」です。災害発生時には、外部の様々な人や組織からの問い合わせや支援の申し出が殺到します。ありがたいことですが、業務はパンクします。今回は震災直後から、事業団で地元のメンバーでしかできないことと外からの支援者でもできることを整理され、また外からの支援者のコーディネートを九州地区的地域国際化協会や当協議会に託されました。地元のスタッフは避難所となった国際交流会館の対応に集中し、手が回りにくい避難所巡回や多言語での情報提供を外からの支援者が対応しました。災害に備えてボランティアの育成やスタッフの体制整備をされているところも多いと思いますが、地元が被災すればボランティアやスタッフも被災しますし、想像以上に多様な外からの問い合わせや支援の申し出が押し寄せます。外部の支援者をどのように受け入れるのか、具体的な計画を検討しておきましょう。

地震活動は活発化し、地球温暖化の影響で水害の頻度も増えています。熊本の経験から改めて、自治体や国際交流協会、NPOに求められている役割を問い直し、日頃の取り組みを整えることで災害に備えましょう。

NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 代表理事 田村太郎

## 熊本地震の状況

### ●熊本地震の概要

○前震 発生日時:2016年4月14日(木)

21時26分

規模:マグニチュード6.5

熊本市内震度6弱(県内最大震度7、益城町)

○本震 発生日時:2016年4月16日(土)

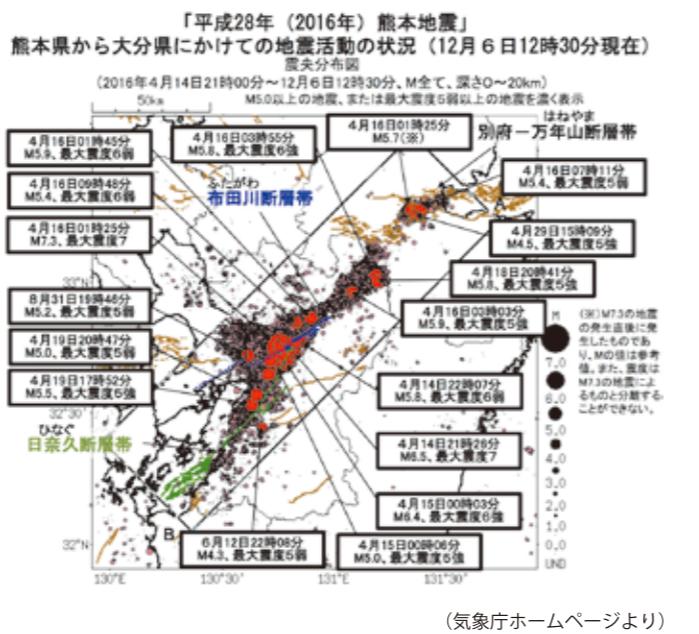
01時25分

規模:マグニチュード7.3

熊本市内震度6強(県内最大震度7、益城町)

○震度1以上の余震、4202回(余震・活断層型地震)

(12月24日 現在)



### ●熊本市被害状況(12月14日 現在)

人的被害:死者数61人(関連死57人を含む)、重傷者 696人

(県内人的被害:死亡者156人(関連死106人を含む)、重傷者1,068人)

家屋被害:全壊 2,452棟、半壊14,975棟、一部損壊91,794棟

(県内家屋被害:全壊8,349棟、半壊32,159棟、一部損壊138,214棟)

最大避難者数 約11万人(県内最大避難者数 約18万人) (4月17日08時頃時点)



参考:熊本市の人口と在住外国人の状況 (震災前)

世帯数	人 口			外 国 人			
	計	男	女	計	男	女	
中央区	91,537	176,637	81,197	95,440	2,220	980	1,240
東 区	84,038	190,637	90,593	100,111	796	369	427
西 区	42,137	92,537	43,240	49,297	550	273	277
南 区	52,662	129,041	61,060	67,981	367	140	227
北 区	61,715	143,861	68,471	75,390	564	232	332
計	732,713		4,497				

多い順国籍 中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ベトナム、米国、ネパール

多い順在留資格 永住者、留学生、日本人の配偶者

(熊本市人口統計平成28年3月31日)

(半年経って)

世帯数	人 口			外 国 人			
	計	男	女	計	男	女	
中央区	92,449	177,795	82,142	95,653	2,373	1,082	1,291
東 区	83,520	189,339	90,139	99,200	817	392	425
西 区	42,182	92,279	43,223	49,056	550	270	280
南 区	53,137	129,884	61,522	68,362	421	170	251
北 区	62,423	144,643	68,877	75,766	576	246	330
計	733,940		4,737				

多い順国籍 中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ベトナム、米国、ネパール  
多い順在留資格 永住者、留学生、日本人の配偶者

(熊本市人口統計平成28年12月1日)

## 半年経って

時間が流れるのは早く、師走になりました。ただ、8ヶ月が経つても熊本地震の傷跡が多く残っています。御幸坂は閉鎖状態で、熊本城内にはまだ入れず、加藤神社側や二の丸公園から遠くに3つの天守の外観を見ること

になります(表紙写真)。城彩苑から階段を登り二の丸公園へ向かう観光客数は回復してきました。韓国、台湾から個人や少人数の団体旅行の方々が見られるようになりましたが、大型バスで来熊される観光客はまだまだ少ない状況が続いています。



生活は日常を取り戻し、各地で復興イベントが開催、12月17日のディズニーの人気キャラクターが登場した「きらきらパレード」には11万人が押しかけました。二の丸公園と護国神社をつなぐ道が再開したり、百間石垣の復元計画が始まり、復興の動きが目に見えてきました。

一方、熊本市の避難所は9月中旬にすべて閉鎖されましたが、応急仮設・みなし仮設住宅への入居者数は18,782人となり、コミュニティ維持が課題になっています。

生活者としての外国人の数的状況は、左記表の比較から、熊本地震の影響を受けなかったことが分かります。発災後県外や母国へ避難した留学生等の外国人は元の生活へ戻って来ました。ところが、半年が過ぎ、外国人の生活に問題が起こっています。損壊したアパートの建て替えが本格的に始まり、住んでいる部屋を退去せざるえないケースが急増する中、外国人であることを理由に入居を断られる事例が数件ありました。過去に外国人居住者が食用油でパイプを詰ませたこと等が入居拒否の原因であり、適切な説明をせずに一括りに「外国人お断り」は人権問題であり、受け入れ社会側がもっと多文化共生社会について理解することが必要です。一般的に、外国人が入居を断られるケースに、騒音・ゴミの処分・違法駐車・友人への又貸しがあります。外国人の母国での居住ルールや生活文化の違いを理解し、一方、彼らに日本での居住ルールや建物の構造、また地域ルールを丁寧に説明することが重要です。

日常生活が戻り、多忙な中被災者の心の不安やトラウマは気づかないうちに蓄積されていきます。外国人は、言葉や文化の違い、日本のルールに不慣れなことから日本人以上に、心の不安やトラウマが重症化したり、日本人配偶者よりDVを受けたりするケースも報告されています。日本で長く生活している外国人でさえ、持っている情報が不十分であったり、日本の常識と異なったりすることから、相談対応にはきめ細かな対応が必要です。

## 支援活動の概略（フェーズ1）

### ①活動内容/期間

- ・外国人避難対応施設運営/4月15日(金)1:00～22:00  
16日(土)4:00～4月30日(土)22:00(24H連続運営)
- ・災害多言語支援センター  
フェーズ1 4月20日(水)～5月5日(木)
- ・外国人被災者のための生活相談会/5月1日(日)

日	曜日	時間	経過内容
4月14日	木	21:26	前震 M6.5 熊本市内震度6弱(県内最大震度7)
4月15日	金	1:00	国際交流会館外国人対応避難施設開設 通常運営中止
			避難者 韓国人3人、日本人1人
		22:00	閉館
4月16日	土	1:25	本震M7.3 熊本市内震度6強 ガス、水道ストップ
		4:00	国際交流会館外国人対応避難施設開設 公共交通機関ストップ
			海外からの旅行者、マスコミが殺到
			最大避難宿泊者数 147人(うち外国人38人を含む)
4月17日	日		・各国の駐日大使館や領事館がバス手配等自国民を支援 ・外国人被災宿泊者への聞き取り調査実施
4月19日	火		JR 熊本駅～博多駅間が一部開通
4月20日	水		災害多言語支援センター開設
			九州ブロック地域国際協会、タブマネ全国協議会よりスタッフ派遣
	PM		避難所巡回開始
4月23日	土		熊本市国際課との定例会議を開始(1回/日)→災害情報の多言語化
4月24日	日		駐日フィリピン領事館による相談会開催
4月26日	火		外国人被災者のための相談会準備開始
4月28日	木		自治体国際化協会より視察
4月29日	金		駐日アメリカ大使視察
4月30日	土		外国避難対応施設公式閉鎖に伴う炊き出し終了
5月 1日	日	11:00	第1回外国人被災者のための生活相談会開催
5月 3日	火		外国人被災宿泊者の自立支援終了
5月 5日	木		災害多言語支援センター第1フェーズ終了



## 支援活動の概略（フェーズ2）

### ①活動内容/期間

- ・災害多言語支援センター  
フェーズ2 5月6日(金)～11月30日(水)  
\* 12月1日からは、KIFの多文化共生まちづくり事業の一環として個別対応
- ・外国人被災者のための生活相談会 5月8日(日)、31日(火)、6月12日(日)  
\* フェーズ1 5月1日(日)の第1回から計4回実施
- ・外国人コミュニティ会議/5月22日(日)、8月21日(日)
- ・地震セミナー/7月16日(土)
- ・熊本地震！外国人被災者支援活動報告会／10月10日(月)

日	曜日	時間	経過内容
5月 6日	金		災害多言語支援センター フェーズ2開始(KIFでの単独運営)
5月 8日	日	10:00	第2回外国人被災者のための生活相談会開催
		14:00	今後の被災外国人支援についての会議開催 (多文化共生マネージャー、熊大、熊本県、KIF)
5月18日	木	13:00	総務省より来館、外国人被災者への情報提供についてヒアリング
5月23日	月	13:30	平成28年度地域国際化協会連絡協議会総会(東京)にて、熊本地震の状況報告
5月31日	火	11:00	第3回外国人被災者のための生活相談会開催(熊本大学・黒髪)
6月12日	日	11:00	第4回外国人被災者のための生活相談会開催
6月26日	日	11:00	国際交流で、熊本城復旧を応援するチャリティ音楽会開催
7月 3日	日	13:30	コムスタカ～外国人と共に生きる会～主催の熊本地震！外国人被災者支援活動の歩みと 課題を考えるシンポジウムで国際交流会館での避難施設運営について報告(パレア)
7月 9日	土	13:00	第1回こころのケアセミナー(震災後子どもの反応と発達からの理解)開催
7月16日	土	13:30	外国人のための防災セミナー開催
7月21日	木	18:30	熊本大学留学生による熊本地震体験をとおしてのグランドチャレンジワークショップ開催(パレア)
8月17日～ 8月21日			KEQP(熊本県立大学、大阪大学、横浜国立大学による協働で実施する 多文化共生社会構築のための熊本地震プロジェクト)で、共同調査を実施
9月16日～ 9月20日			グローバルワークキャンプin諫早(今年度の大学生のワークキャンプでは 熊本地震をテーマとして、20日に熊本城、益城町の被災地視察を実施)
9月22日	木	10:00	第2回こころのケアセミナー(パパママ子どものためのティータイムセッション)開催
10月10日	月	13:00	熊本地震！外国人被災者支援活動報告会開催
10月11日	火	9:30	文化庁日本語教育スタートアッププログラム熊本キックオフ会議開催
10月25日	日	14:00	平成28年度九州地区地域国際化協会連絡協議会総会にて、熊本地震の状況報告
11月 5日	土	10:00	第3回こころのケアセミナー(震災後の子どものトラウマの理解と心の手当セミナー)開催
11月30日	水		災害多言語支援センター閉鎖(第2フェーズ終了)
12月 1日～	木		多文化共生まちづくり事業の一環として個別案件に対応

\* 7月頃より全国の自治体、国際交流協会、大学等からの熊本地震での外国人被災者支援活動報告依頼に  
対応し20箇所以上を訪問、報告(12月現在)

## 外国人避難対応施設運営

熊本市地域防災計画で、熊本市国際交流会館が大規模な災害発生時における外国人避難対応施設として規定されていることを根拠として、熊本地震の前震後の4月15日午前1時、また本震後の4月16日午前4時に、熊本市政策局国際課の決定に基づき、熊本市国際交流会館に外国人避難対応施設(以下、会館避難所という)が開設され、熊本市国際交流振興事業団が会館避難所運営を行いました。

前震後の開設では、韓国人3人と日本人1人が避難、夕方までに退出されたので、15日午後10時に閉鎖しました。

本震後は、前述の開設後4月30日まで、24時間連続で、開設運営しました。4月16日、午前中から、会館避難所には、生活としての在住外国人以上に、韓国、中国、タイ、アメリカ、フランス等海外からの団体旅行や個人旅行の外国人訪問者が殺到しました。外国人避難者数は一時的に100人を超ましたが、そのうち外国人訪問者は交通情報を入手したり、旅行社でバスを手配したりして熊本から出て行きました。一方、在住外国人は、住居の壁や天井が壊れたり、食器棚・箪笥やテレビが倒れたり、不安と恐怖から避難所での宿泊を余儀なくされました。

会館避難所へ宿泊した避難者数は次の表のとおりです。



国籍		在留資格	熊本地震 国際交流会館避難者数の推移																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	8010	8011	8012	8013	8014	8015	8016	8017	8018	8019	8020	8021	8022	8023	8024	8025	8026	8027	8028	8029	8030	8031	8032	8033	8034	8035	8036	8037	8038	8039	8040	8041	8042	8043	8044	8045	8046	8047	8048	8049	8050	8051	8052	8053	8054	8055	8056	8057	8058	8059	8060	8061	8062	8063	8064

## 災害多言語支援センター運営

### 【熊本市地域防災計画について】

- 外国人を災害時要援護者として位置づけ、日頃からの多言語での情報提供や多言語災害カードの配布を記載している。一般財団法人熊本市交流振興事業団が、実施者として特定されている。
- 災害発生時に、熊本市国際交流会館が外国人避難対応施設として記載されている。

### 課題

- 会館避難所の運営者が不明確である。(運営者は、熊本市、指定管理者としての当事業団、あるいは地域国際化協会としての当事業団?)そのため、会館避難所が事前に広報されていなかった。今回の熊本地震では、結果として公設民営で、熊本市が設置、当事業団が運営した。
- 当事業団では、避難所運営とは別途、熊本市内の各避難所へ避難した外国人の安否確認や災害多言語情報を提供する役目を事前想定していたが、避難所運営に忙殺されて、九州地区地域国際化協会のスタッフや多文化共生マネージャー等外部支援者の協力が始まるまで、館外避難巡回ができなかった。

(熊本市地域防災計画抜粋)

### 第3項 外国人に対する対策

外国人は、言葉の違いなどが原因となり、防災に関する情報や災害時における緊急情報、避難勧告等が理解できず的確な避難行動が取れない可能性があり、被害を受けることが考えられる。

このため、日頃から十分な防災対策の啓発に努め、特に傷病者については、言葉が通じないと不安も増すため、医療危難との連携を図りながら外国語で診療を受けることができる医療機関の把握と、市政だよりやホームページを活用した情報提供普及啓発に努める。

風-129

また、(一財)熊本市国際交流振興事業団では、「市政だより」の暮らし、健康に関する情報や本市で外国人が生活する上で必要となる情報を英語、中国語、韓国語へ翻訳して独自のホームページに掲載すると共に、警報以上の災害情報が出された場合、多言語防災メールへ登録している外国人へ災害情報を配信、災害時以外では、生活情報やイベント情報等を定期的(月1回)に配信を行うなど情報提供に努めている。

国際交流会館では、外国人への多言語での相談窓口を設置するなど、情報提供に努める。さらに市民の生活の日本語ボランティア登録制度の充実を図る一方、外国人のニーズやレベルに合わせた様々な日本語教室を開催し、言葉の問題に起因する情報不足の解消に努めるほか、地域の保健福祉センターや自治会及び地域に居住する外国人グループ等と連携をはかり、防災意識の啓発や防災訓練等の地域活動へ外国人が積極的に参加する環境を整える。

#### 外国人避難対応施設

施設名	住所	電話番号
熊本市国際交流会館	熊本市中央区花畠町4番18号	096-359-2020

※大規模な災害発生時には上記の施設が観光文化交流局対策部により開設されますので、連絡又は避難してください。  
(現政策局国際課)

### 【開設の経緯】

前述のとおり、本震後の4月16日、会館避難所へは熊本を脱出したい外国人旅行者が多言語での交通情報を求め殺到しました。会館避難所への在住外国人避難者支援活動に加え、電話での地震、避難所、食料や水の配給等の問い合わせの電話が寄せられ、その対応に追われました。

また、NHKをはじめ多くのテレビ局、新聞社からの取材の電話やCNN、BBCの海外メディアからの電話取材も殺到した。さらに、大使館、領事館から自国民の安否確認の電話もあり、事業団が震災時に役割として想定していた熊本市内の各避難所へ避難している外国人の安否確認や情報提供のための巡回は一切できる状態ではありませんでした。

このような中、本震後に、九州地区地域国際化協会連絡協議会の防災協定に基づき幹事協会の北九州国際交流協会間での協力職員派遣についての電話での話し合いが始まりました。同時に、多文化共生マネージャー全国協議会と、多文化共生マネージャーの協力派遣についての協議も始まりました。

4月20日、1名の九州地区地域国際化協会の職員と2名の多文化共生マネージャーが派遣され、災害多言語支援センターの活動が始まりました。

#### 【活動内容】

- 災害情報の多言語化(英語、中国語、韓国語)。翻訳された災害情報は、会館避難所への掲示、事業団ホームページとFacebookへのアップ、さらに熊本市国際課によって全庁で閲覧できる電子掲示板にアップされ、各避難所で必要に応じてプリントし、外国人避難者へ情報提供されました。

本格稼働を始めたのは、市の災害支援情報を入手できる体制ができた4月23日からでした。

- 避難所巡回(外国人被災者の安否確認と支援情報提供)。4月20日の午後から開始、外国人居住データを基に各避難所に電話で外国人避難者の有無を確認して、約50カ所の避難所を巡回しました。



4月23日以降、本格始動した災害支援情報の多言語への翻訳を担当するスタッフの活動の様子



4月20日、最初の災害多言語支援センタースタッフミーティング



校区別の在住外国人データを基に、在住外国人が避難しているような避難所を地図で確認作業しているところ

#### 【地域国際化協会とは】

地域の国際化を行政とともに推進する民間国際交流組織であり、総務省が定める指針に基づき、県、政令指定都市が作成した「地域国際交流推進大綱」に位置づけられた民間と行政の中核的民間国際交流組織を「地域国際化協会」という。総務省は、この組織を「地域国際化協会」と認定し、各種の支援措置を行っている。

■地域国際化協会を総括する一般財団法人自治体国際化協会のホームページ  
URL <http://www.clair.or.jp>

#### 【多文化共生マネージャーとは】

自治体国際化協会が実施する在住外国人に関する諸制度や諸課題について理解を深め、多文化共生社会の進展に対応するための知識の習得、関係機関・部局等とのコーディネート能力を養成する研修を受講・終了した多文化共生文化の専門家。全国に415人の多文化共生マネージャーが登録されている。(平成28年7月現在)  
■URL <http://tabumane.jimdo.com>

# 避難所巡回

## 【活動内容】

災害多言語支援センターを設立した4月20日の午後から避難所巡回が始まった。初日は、事前に中国人、ベトナム人、ムスリム、留学生、ALTの方々が避難しているという情報を得ていた避難所や外国人校区別居住データより在住外国人が避難していそうな避難所に的を絞り、10カ所程度の避難所を、事業団関係の地元スタッフと県外からの協力スタッフが3チームに分かれて巡回した。

翌4月21日には各避難所へ電話連絡で上記のことを確認の上、午後から巡回した。

(5つのチームに分かれて計20カ所以上の避難所を巡回した。)

翌22日は30カ所以上の避難所を巡回し、その後、23日、24日、27日、5月2日、3日と計8回、50カ所以上の避難所巡回した。



外国人被災者の安否確認、災害多言語情報提供のための避難所巡回

外国人のための電話相談と情報提供

電話相談・情報提供 TEL 096-359-2121

ホームページ <http://www.kumamoto-if.or.jp/>

災害多言語支援センターの広報チラシを各避難所に掲示してもらいました。

## （避難所での外国人受け入れの課題）

外国人避難者が感じた課題：

- 日本語が理解できる外国人でも、周りの日本人が声をかけてこない、日本人の目線が気になるなどのストレスを感じていた場合が多く、配給される食事の列には並ばず、カップばかりを食べている外国人避難者がいた。
- “給水所”、“物資配給”、“り災”等の日常会話に出てこない単語が多く不安を抱えた外国人避難者がいた。
- 日本語があまりできない、あるいはイスラム教徒等特別な文化背景を持つ外国人は、さらに大きなストレスを感じ、避難所から退去するケースがあった。例えば、配給される食事の材料の説明がなく、イスラム教のハラールへの配慮がなかった。

## 避難所運営側が感じた課題：

- 避難者名簿の管理できていない避難所が多くあった。外国人は災害時要援護者と規定されているが、国籍管理がなされていなかった。

- 外国語が理解できずコミュニケーションがとれず、関係が悪化する場合があった。

## 考 察：

- 災害多言語支援センターは、各避難所と連携を図り、言語や文化の違いから不安を抱えている外国人がいれば、多言語情報提供や母語話者が寄り添って安心を届けることが重要である。
  - 母語話相談員が話しかけた時、避難所で初めて笑顔を見せて中国人がいた。
  - 日本語が分かるタイ人避難者は、タイ語での情報（タブレットで大阪大学のホームページのタイ語情報を見せた）に涙した。
- 想定より避難所への外国人避難者が少ないようだった。車中泊の外国人（日本人の配偶者、家族で滞在している就労者等）が多いように考えられる。また、留学生は一時熊本を離れた者が多かった。

## 【外国人による避難所運営、被災者支援活動】

外国人が被災者でありながら、日頃支えてくれた地域住民を支援するため、彼らの「多文化パワーハ」が発揮されたケースが多くあった。



①熊本大学 黒髪キャンパス 避難所：  
留学生が中心となって避難所の運営を行った。学校時間割りのような活動表を作り、ゲームや英語活動を行っていた。また、学校内で映画上映会を行い、避難者を支援した。



②熊本イスラミックセンター：  
全国のムスリムから支援物資が熊本イスラミックセンターに届けられた。また、富山イスラミックセンター等の有志が支援に駆けつけた。彼らは被災者の避難所に物資を届けたばかりか、配給場所から重たい物資を家に持てて帰るのに苦労している高齢者の住居へペットボトルの水などを一軒一軒配って回った。

## ③外国人コミュニティによる炊き出し：

フィリピン人コミュニティ、ネパール人組織、スリランカ料理店の方々が各避難所で炊き出し支援をした。



# 情報の多言語化

外国人が災害時要援護者になる原因の一つは言葉の違いである。日常会話が問題ない外国人でも、「り災証明書」や「仮設住宅申請」を一人で行うことは難しい。避難所での「給水」や「配給」などの単語が理解出来ず、日本人の行動についていけずストレスや不安を抱えることも多かった。このようなことから災害時の多言語支援は必須となる。

当事業団では、熊本地震発生時には、自治体国際化協会の多言語ツールを活用し、地震の発生や落ち着いて行動するように呼びかける災害メールの配信とホームページへの掲載を日本語、英語、中国語で行った。(ホームページへは韓国語を加えた4言語で掲載)

外国人避難対応施設開設時には、外国人からの問い合わせが多かった交通情報、避難所情報、錢湯情報などを多言語化して会館内のホワイトボードに貼り出した。

その後、災害多言語支援センターが設立され、4月23日に熊本市国際課との打ち合わせを行い、毎日発行される熊本市災害支援情報を入手して、日本語に加え、英語、中国語、韓国語に翻訳した。熊本市の庁内電子掲示板にアップされ各避難所で閲覧、必要に応じて印刷可能となりました。また、当事業団のホームページやFacebookへアップすると共に、国際交流会館内のボードに掲示しました。

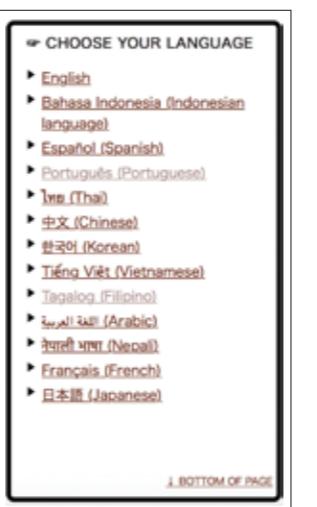
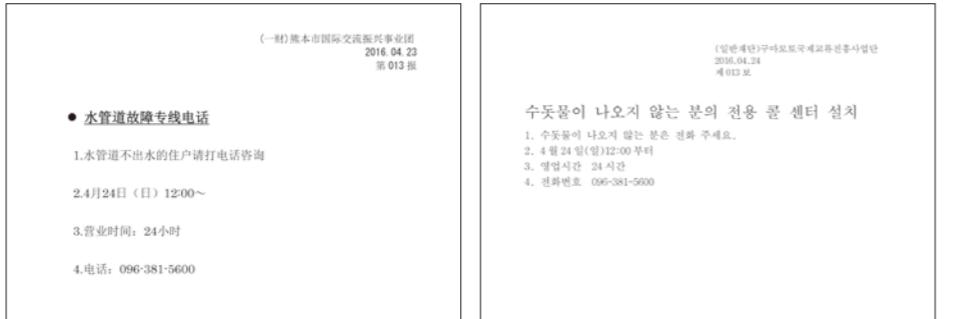
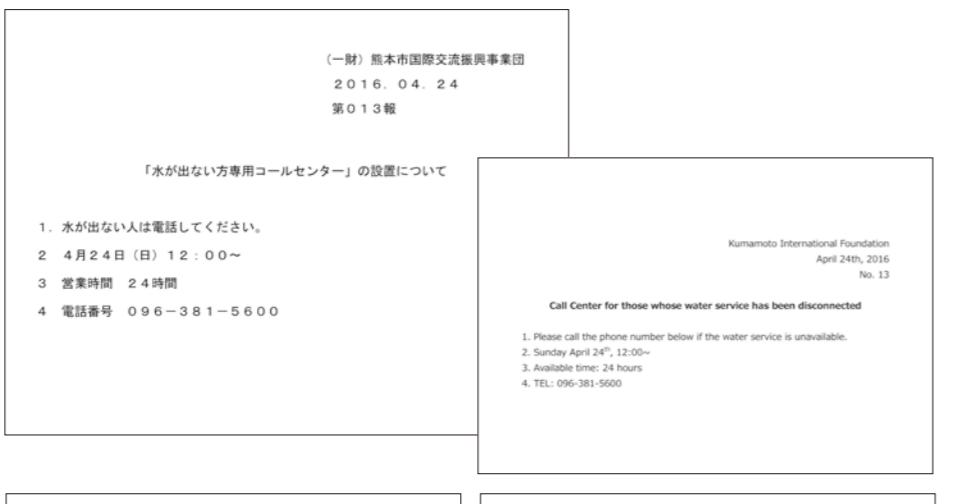
情報提供数は、フェーズ1期間(九州地域国際化協会スタッフと多文化共生マネージャーの協力時期 4月23日から5月3日)に47本、その後、事業団で引き継ぎ、7月26日時点で83本の情報提供を行った。(12ページ災害支援情報一覧の通り)

## 少数言語への対応

大阪大学未来共生イノベータ博士課程プログラム(塚本俊也教授)の協力をいただき、12カ国言語へ翻訳して、大阪大学のホームページに掲載していただいた。

URL  
[http://www.respect.osaka-u.ac.jp/activities/notice/kumamoto\\_earthquakes\\_multilingual/](http://www.respect.osaka-u.ac.jp/activities/notice/kumamoto_earthquakes_multilingual/)

震災時に、日常会話ができる外国人も彼らの母語で話しかけられる等、情報が母語で提供されることは大きな安心につながります。



## 「やさしいほんご」へのリライト対応

熊本県立大学文学部日本語教育研究室(馬場良二教授)の協力をいただき、災害支援情報を「やさしいほんご」へリライトして、事業団のホームページに掲載しました。

## 情報多言語化の課題

●翻訳出来る方々のネットワーク構築でタイミングな多言語情報提供が必要

●有益な情報を選別し、必要とする人が理解し、活用できるように情報を発信しなければならない。どの程度まで理解できたかを評価することが難しい。

●現在は、ホームページへの掲載で、必要な人が自ら見に来ることが必要である。今後は、必要と考えられる人に理解できる言語で情報を届ける方法を検討することが必要である。

●今回多言語へ翻訳した災害支援情報を今後有効に活用できるようデータベース化することが理想である。



国際交流会館内の多言語情報コーナー

## 災害支援情報一覧

No.	項目(分類:生活・交通・手続・ボランティア・その他)
43	熱中症に注意しましょう!
44	外国人のための電話無料相談会(通訳付き)
13-③	「水が出ない専用コールセンター」の設置について(追加情報)
45	児童育成クラブを再開します。
46	水道料金及び下水道使用料の減免措置
47	応急給水
48	生活福祉資金(緊急小口資金)特例貸付のご案内
49	熊本地震関連の各種相談窓口
50	臨時預かり保育サービス事業について
13-③	「水が出ない専用コールセンター」の設置について(追加情報)
51	熊本市の通常ごみの収集再開
52	民間賃貸住宅の借上げ(みなし仮設)について
53	熊本地震被災に伴う教科書及び学用品の支給
18-②	応急危険度判定について
54	今、何を食べたら良いの?
55	地震災害に伴うごみの搬出について
56	熊本地震による児童相談所の心理相談について
57	5月14日(土)、15日(日)における「り災證明の受付」について
58	攝りすぎないで!
59	妊娠とこころの電話相談について
60	「平成28年熊本地震 学校教育緊急ダイヤル」の開設
61	熱中症や食中毒に注意しましょう
62	
63	り災證明の発行について
64	準備しておきたい非常持出品
65	熊本市から市外・県外へ避難されている皆様へ
66	被災し仕事がなくなった方を臨時職員として雇用します
67	震源地側に建設する応急仮設(フレハ)住宅に関する説明会の開催について
68	4月に「り災證明書」を申請された方へ
51-②	熊本市の通常ごみ収集再開(埋立てごみ)
69	
70	熊本地震に伴う保育料(利用者負担額)について
71	医療保険窓口負担や介護保険利用料の猶予について
72	被災者生活再建支援のための総合窓口開設について
73	車中・テント等に避難されている皆様へ
74	被災した家屋等の解体・撤去申請受付開始について
75	個人市民税の減免について
76	地震災害ごみの収集について(植木を除く)
77	平成28年度震害対策費・都市計画費及び整備自動車税の新規還付の送付について
78	本戸で倒れた木がある方やその家族の皆への迷惑窓口を設置しています
79	地震災害ごみについて
80	平成28年度の江津湖花火大会は熊本地震の影響で中止します
81	震災センター及び仮設窓口の震害体験収集の受け入れについて(椎木地区除く)
82	熊本地震で、予防接種が受けられなかった方への費用助成のお知らせ
83	被災者生活再建支援のための総合相談窓口について

# 外国人被災者への生活相談会開催

会館避難所運営と会館外避難所巡回を行う過程で、居住の問題やこころの不安を抱えながら自宅や車中泊をしている外国人が少なからずいたことから、4月26日に国際交流会館での相談会開催の準備を開始し、5月1日、8日、31日、6月12日の4回開催しました。また、関連した外国人コミュニティ会議を5月22日と8月21日に、防災と地震に関するセミナーを7月16日にそれぞれ開催しました。一方、会館での個別の相談や電話での対応は事業団の通常業務として隨時行っています。

発災当初は、地震への恐怖や何処へ避難すればよいのか、熊本から出る交通手段についての相談が多くを占めました。5月中頃から学校や会社が再開され日常が取り戻されると相談内容が、失職や研究の遅れなど今後の生活に関することや眠れない、震災後に子どもの様子が変わった等のこころの不安へと変化しています。

## 第1回 相談会

5月1日(日) 11:00~14:00

国際交流会館1階エントランスロビー

来場者 80人 (国籍 フィリピン、インド、ブルガリア、スリランカ、インドネシア、英国、バングラデシュ、タンザニア、エジプト、中国)

相談件数 48件

### 内容

#### 【法律】

- 住んでいたアパートが地震で住めなくなったが、家賃を支払う必要があるか。
- アパートの大家から立ち退きを告げられたが、部屋に大きな損害がなく続けて住みたい。



### 【居住】

- アパートの安全確認を急いでお願いしたい。
- 家が壊れた、新しいアパートへ移りたい。
- 家の壁が壊れたり、家内の家具や食器が破損したりしているが、保証手続きについて知りたい。



### 【在留資格】

- 在留資格の期限が迫っているが、家が壊れ避難所や友人宅を渡り歩いている。更新時の住所はどのようにすればよいか。

### 【行政】

- り災証明書の申請の仕方について

### 【こころ】

- 地震への恐怖で夜、家に帰れない。(前震の時、テレビが寝ている顔の直ぐ横に倒れてきた。)

## 第2回 相談会

5月8日(日) 10:00~14:00

国際交流会館2階交流ラウンジ

来場者 120人 (国籍 ネパール、フィリピン、インドネシア、英国、バングラデシュ、ケニア、タイ、ベトナム、アメリカ、メキシコ、中国)

相談件数 50件

### 内容

#### 【法律】

- 勤務している会社からの給与支払いが滞っている。
- アパートの温水器が壊れているが管理者(大家)が対応してくれない。
- インターネットの契約について(地震で使用していない)。



### 【居住】

- アパートの安全性に不安がある。
- パイプが壊され、家内に汚水が入ってくる。
- 家の壁が壊れた。パソコン、テレビが壊れた。
- 団地の4階に住んでいるが1階へ引っ越ししたい。



## 【在留資格】

- 地震の影響で会社を解雇された。早く別の仕事を探したいが在留資格の制限がないか心配。

## 【行政】

- り災証明書の申請の仕方について
- 住宅地のゴミ回収について
- 生活に困窮しているが市の支援はないか

## 【こころ】

- 胎児への影響がないか心配(妊婦の方から)
- 5歳の子どもが怖がってしかたがない
- 高校生の子どもが話さなくなった、一人で寝れなくなった
- 子どもの変化に、どのように接してよいかわからない
- 夫がいないと決まって頭痛が起こる
- 恐怖を誰かに伝えたい



## 第3回 相談会

5月31日(火) 11:00~14:00

熊本大学黒髪キャンパスグローバル教育カレッジ棟

来場者 4人 (国籍 国籍 バングラデシュ、ミャンマー、インドネシア、中国)

相談件数 4件

### 内容

- 地震でアパートが壊れたので引っ越したい
- 地震がまた来るのではないかと不安で眠れない
- 日中、妻がアパートで一人になるので心配
- 地震で研究が遅れたが、奨学金は予定通りに終了するため、研究が継続できるか心配
- 地震で仕事がなくなった。アパートも全損で住めない。



相談会時に支援物資の配布を実施

## 第4回 相談会

6月12日(日) 11:00~14:00

国際交流会館2階交流ラウンジ来場者 3人 (国籍 インド、ジャマイカ)

相談件数 3件

### 内容

- 地震でアパートが住めなくなったので、新しいアパートに引っ越しする必要がある
- アパートを2年契約したが、解約できるか?
- 英語教師として来熊し、1年以上の契約が残っているが、ポジティブに働き生活する自身がない。

## 相談会協力者

熊本県弁護士会、熊本県行政書士会、熊本市居住支援協議会、熊本市、イエズス会の聖心病院、日本イスラエイド・サポート・プログラム、多文化間精神医学会、コムスタカ～外国人と共に生きる会～

## 課題と今後の対応

当初の相談内容は、非日常から起きた恐怖への対応や早急な安全の確保ごとであったが、日々の経過とともに日常生活が取り戻されると今後の生活の再建や仕事・会社のことへ変化していました。また、日常の多忙な生活中では、こころの不安が知らず知らずのうちに蓄積され、気づいた時には重症化している場合がありました。個別相談を受け付けるとともに、音楽イベントや交流会等の楽しいイベントの中に相談会機能を入れる工夫が必要となっていました。

また、外国人のコミュニティが在住外国人の相談の受け皿になることも多く、コミュニティ間の情報交換の場を積極的に作ることも重要となります。6月26日に熊本城復旧支援コンサートでは熊本大学留学生会の「頑張ろう」ステージで交流したり、7月16日に地震のメカニズムや今後の地震の可能性についてのセミナーを開催したり、しました。また、5月22日、8月21日に外国人コミュニティ会議を開催しました。



2016年4月14日に誕生した赤ちゃんを抱え避難して来たバングラデシュ人

# 熊本地震！外国人被災者支援活動報告会開催

熊本地震発災から半年が過ぎ、生活に日常が戻ってきました。この一つの節目として、「熊本地震！外国人被災者支援活動報告会」を開催し、この時、本報告書「多文化共生社会のあり方～未来へつながりの大切さ～」の第一版を発行しました。

日時：10月10日(月)13:00～16:00 場所：国際交流会館4階 第3会議室 参加者 80名(参加費無料)

後援 一般財団法人自治体国際化協会(クレア)、九州地区地域国際化協会連絡協議会、熊本県、熊本市、NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会、熊本県国際協会、熊本市人権啓発市民協議会

クレア多文化共生部長澤田淳一氏に来賓のご挨拶をいただいた後、次のとおり進行しました。

【外国人被災者体験発表】 外国人被災者二人に体験発表いただきました。

- ・ディヌーシャ・ランブクピティヤ氏(スリランカ出身)
- ・モハメド・サミール氏(パキスタン出身)



## 概要

ディヌーシャさんは、スリランカ人の家族4人で4月に熊本へ引っ越しました。発災時周りに知人がおらず、孤立を感じる中、子供の小学校へ避難し、子供の同級生が話しかけてきた時に、救われたと心から安堵を感じたそうです。サミールさんは、日本人の奥様とお子さんの4人暮らし。食料が不足している時にイスラムの戒律を守ったハラルのお弁当が届いた時は本当にホッとした、救われたと感じたそうです。(リッチモンドホテルからの物資、8ページ参照)一方、全国のイスラム教徒から届いた支援物資を困っている被災者へ配って回りました。お二人の発表から改めて“つながり”的大切さを認識しました。

## 【シンポジウム】

初期対応、情報の多言語化、こころのケアの3点から発表いただきました。

- ①初期対応 ～ 避難所支援  
発表者 中島真一郎氏(コムスタカ～外国人と共に生きる会～)  
ファシリテーター 羽賀友信氏(長岡市国際交流センター長、KIF多文化共生アドバイザー)
- ②情報の多言語化 ～ 災害多言語支援センターの活動  
発表者 土井佳彦氏(NPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事、多文化共生マネージャー)  
山浦育子氏(荒川区文化交流推進課国際交流主任推進員、多文化共生マネージャー)  
ファシリテーター 塚本俊也氏(大阪大学大学院未来共生イノベーター博士課程プログラム特任教授)
- ③こころのケア(今後へ)  
発表者 ビゼイ・ゲワリ氏(一般財団法人イスラエイド・サポート)



## 概要

初期対応では、避難所へ行った外国人が少なかったこと(日本人がほとんどで情報が日本語だけだったことが大きな不安となった)、インターネットのデマ情報への対応の必要性等が報告されました。国際交流会館避難所については、当初指定避難所でなく物資配給への不安、24時間運営期間の決定の遅れが外国人避難者に不安を与えたことが課題として指摘されました。

情報の多言語化では、災害多言語支援センターの運営状況が報告される中、その円滑な運営には、提供される施設の頑強さやインフラが整備されていることが重要であると指摘されました。熊本地震では国際交流会館が問題なく、災害多言語支援センターと避難所として使用できることは幸運でした。

避難所巡回活動では、母語で話しかけられた外国人避難者が初めて見せた笑顔は活動成果ですが、一方、普段から外国人を孤立させない多文化共生社会の推進をしていく必要性が課題となりました。

こころのケアでは、被災者が、自らのことを、誰かに話し表現できる機会が大切であると報告されました。必要とし合う信頼感とコミュニケーションで被災者のこころの不安を軽減していくことが必要です。

## 【ディスカッション】 熊本地震から学ぶ今後の多文化共生社会のあり方

- 総合コーディネーター 田村太郎氏  
(NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会代表理事)
- パネリスト 羽賀友信氏  
(長岡市国際交流センター長、KIF多文化共生アドバイザー)  
塚本俊也氏  
(大阪大学大学院未来共生イノベーター博士課程プログラム特任教授)



## 概要

地域の力、コミュニケーション、ボランティアコーディネーション等、外国人が孤立しない多文化共生社会構築のための多くのヒントが提言されました。

特に、外国人が災害弱者として支援される側でなく、普段から一緒に社会を構築していくパートナーとなり、お互いに必要とし合うことが最も重要です。災害時に在住外国人の通訳支援があれば、海外からの訪問者は安心することでしょう。また、高齢者や障がい者等の災害弱者を避難所へ連れて行ったり、水や食料を運んだり、地域社会を支える力になることでしょう。実際に、熊本地震では、多くの外国人が避難所の運営に参画したり、炊き出し活動をしたり、支援者側として活躍しました。

16:30～17:30 情報交換会  
国際交流会館 1階エントランスロビー フェアトレード  
参加者、発表者の方々がお菓子と飲み物をいただきながら和やかな雰囲気で情報交換を行いました。

和やかな雰囲気の  
情報交換会



## 国際交流協会の役割、動き出した活動

### 【国際交流協会の役割】

熊本地震での外国人支援活動をとおして、災害情報や避難所での生活情報等を多言語化、また、やさしい日本語へライトする際には、外国人には我々日本人のような地震に関する知識がないことを前提にして、対応しなければならないことを再認識しました。

例)避難場所が学校となることを知らなかった。避難所での日本人の行動に付いていけず不安を感じた。

また、より効果的に外国人支援活動を実施、安全・安心を届けるには、普段から地域で外国人を含めた住民のつながりを構築しておくことが大切であることも再認識できました。

さらに、外国人は言葉や文化の違いから災害弱者となります。熊本地震で、彼らは自ら避難所を運営したり(熊本大学)、母国料理の炊き出しをしたり(フィリピン人会、中国人技能自習生等)、また、近隣の住民が“ダイジョウブ”と声をかけてくれるようになったと心から感謝していました。

このような地域での外国人と日本人のつながりを演出できる組織として国際交流協会があります。国際交流協会は普段から外国人と日本人の交流イベント、日本人へ異文化理解講座、外国人への日本語教室を実施しており、自治体と連携を図りながら、普段から外国人を孤立させないための役割が期待されます。

### 【動き出した活動 ～ 多文化共生社会の拠点となる日本語教室の開設】

まさかの時は、誰もが協力し助け合うものです。しかし、その協力、助け合いは、地域にどんな人たちが住んでいるかを普段から交流をとおしてお互いに知り合っておくことでより効力を発揮します。この信頼関係があれば、災害時には、日本人・外国人住民が協力し避難したり、外国人が高齢者や障がい者の避難を補助したり、「誰一人置き去りにしない社会」が実現できるはずです。このような地域社会をつくっていくには、住民間のコミュニケーションを活発にしていく取り組みが重要です。

KIFでは、熊本地震で閉鎖になった東区の日本語教室の再開を目的に、文化庁の日本語教育スタートアッププログラムを活用し、地域の外国人と日本人が集い交流することで、災害時にはお互いに助け合えるような多文化共生社会の拠点となる日本語教室づくり事業を開始しました。

現状として、日本人の多くは国際交流をしたいけど、外国人を見ると英語を話さないといけないと思い込み、それから先が進まないことが多いようです。そこで、地域での交流は言葉ではなく気持ちで進めていくこと、日本人側が外国人の立場になりやさしい日本語について学ぶ場となり、外国人・日本人が気軽なおしゃべりや交流をとおし、地域の多文化共生の拠点となる日本語教室モデルを作り、熊本市内に設置、広げていきたいと考えています。

現状の日本語教室の現状(10月現在)：中央区国際交流会館、北区菊陽町光の森市民センター「キャロッピア」で開催しています。2017年4月に東区での日本語教室を再開、その後、南区、西区へ開設していく計画です。

また、熊本県立大学、大阪大学、横浜国立大学と、熊本地震での外国人被災者の状況について共同調査(KEQP: Kumamoto Earthquake Project)を実施し、その成果を本日本語教室の開設運営に反映させていきます。



KEQPの益城町での聞き取り調査の様子

## 外国人被災者の声

### 熊本地震と家族

4月14日夜と4月16日未明の二度、震度7の大きな地震が熊本を襲いました。幸い家族は全員無事で、家も大丈夫でした。15日にお風呂に水をいっぱい溜めて、水と食料品をたくさん買ってきました。16日の本震後、しばらく車中泊をしました。

日本語が全く分らないおじいちゃんは認知症で、地震後デイサービスの利用はできなくなり、家でガスと水が出ないため、ホームヘルパーさんも来れなくなりました。近くの避難所を回っても、和式のトイレしかなく、人が多い中での避難所生活は、認知症のおじいちゃんにとっては無理だと判断しました。そこで、余震の続く中、車の中で、生活していましたが、夜になると車内で騒ぐようになり、3日間が限度で、その後は余震が続いているましたが、自宅に戻ることになりました。

楊 軍さん  
(国際交流会館 中国語相談員)



### 熊本地震とフィリピン人の活動

熊本市内には、450人以上のフィリピン国籍の外国人が生活しています。日本人の配偶者が多く、日本国籍への帰化や日本人の間に生まれた子どもたちを含めるとさらに多くのフィリピンルーツの人たちがいます。このフィリピン人は、熊本フィリピン人会とカソリック教会の2つのコミュニティを中心に助け合っています。

熊本地震では、就寝中にテレビが顔の真横に倒れ死に一生を得た者など、多くのメンバーは家に戻れず車中泊を余儀なくされました。そんな中にも、4月24日(日)に在大阪のフィリピン領事館によるパスポート更新・相談会、5月4日(水)のマリア・フェスティバルを開催し、お互いに励まし合いました。福岡のフィリピン人グループも駆けつけ元気づけられました。

メンバーは、熊本国際交流会館でのコムスタカーフor人と共に生きる会への炊き出しを手伝い、助け合いました。今後も日頃からの交流や情報交換を大切にして、助け合っていきたいと思います。

日高マリナさん(国際交流会館 タガログ語相談員)



### 私と家族と熊本地震

4月1日、私と家族(夫と二人の子ども)は仕事の関係で熊本へ引っ越ししてきました。その2週間後に熊本地震が起きました。引っ越しばかりのアパートは壊れ、知り合いや母国出身の友人を少なく、孤独感に襲われました。

避難所も分からず、やっとたどり着いた子どもの小学校では、知り合いがないなくて不安でしようがありませんでした。その時、長女の友人が声をかけてくれました。本当に救われた気持ちで一杯になりました。知人や友人から電話をいただくと安堵から大泣きました。

私が、熊本地震を経験して感じたことです。震災が起きた時、外国人も日本人もどうしようもない孤独を感じます。そんな時は、お互いに話し合いましょう、声をかけ合うだけ、辛さが和らぎます。他人に声をかけることは勇気が必要ですが、他に何もいません。声をかけられ、被災者は救われます。\*

\*7月16日(日)外国人のための防災「地震セミナー」でのディヌーシャ・ランブクピティヤさんの被災体験発表より

ディヌーシャ・ランブクピティヤさん(崇城大学教員、スリランカ)



### 熊本イスラミックセンターの熊本地震支援活動

熊本市には約350人のムスリム(イスラム教徒)が生活しています。国籍は、インドネシア、パングラデシュ、パキスタン、マレーシア、エジプト、アフガニスタン、スーダン、キリギス等で、研究者が多く就労者もいます。

熊本地震は、私たちムスリムへも壊滅的な被害と心的ショックを与えました。とりわけ女性と子どもたちは、トラウマを抱え、家に入れなくなりました。また、水と食料を確保することも当初大きな問題でした。幸運にも誰も怪我することなく無事に避難することができました。

このような中、日本全国のムスリムの友から水、食料、トイレットペーパーや生理用品等の生活用品が多く届けられました。私たちはこれら救援物資を困っている方々へ届ける活動を始めました。当初、イスラム教は怖い、信じられないと受け入れを断られました。毎日のようにテレビでイスラム過激派のテロ行為が報じられており仕方ないかもしれません。関係機関からの助言もあり、その後、益城町、御船町、大津町等の方々へ物資を直接お渡しすることができました。

今後、私たちムスリムとそうでない方が協力し合い、お互いに助け合いながら共に生きていける、強い絆を持つ社会を、日本、熊本で作っていきたいと思います。

マルロ・スイスワヒュさん  
(熊本イスラミックセミナー、インドネシア)



### My experience of Kumamoto Earthquake

The Kumamoto earthquakes were experiences I never expected to have, and everybody who experienced them will never forget what happened on those April days. To ensure the foreign residents of Kumamoto could exchange their experiences of what happened, I helped to organise a workshop in July 2016 for people to share them. Around thirty people gathered to discuss what they had been through and to listen to the experience of others. One thing that every person in attendance mentioned was how the Japanese residents helped foreigners, shared food with them, helped them to understand what was going on. Despite the divide some people imagine between the Japanese and foreign community in Kumamoto, during this time of disaster everybody came together. If there is one thing I would want to share about my experiences of the earthquake it is this: we are all only human, and it is in the worst of times that we realise that we are all humans together and differences are only skin deep.

Andrew Mitchell(Mr.)Kumamoto University(England)



(日本語訳)

### 熊本地震で感じたこと

私にとって、熊本地震は、これまで経験したことがない凄まじい経験でした。そして、経験した人はこの4月の出来事を忘れるのではないでしょうか。外国人が熊本地震で経験したことを共有するため、私は7月にワークショップの企画開催に携わりました。約30人の方が集まり、経験したことを自ら話し、他の経験を聞きました。誰もが話した共通の意見は、日本人が外国人へ、食料を確保したり、地震の状況を教えてくれたり、と助けてくれたということでした。日本人と外国人コミュニティ間の隔たりなく、震災中は誰もが一つになって助け合いました。私がこの地震の経験をとおして、皆さんと分かち合いたいことがあるとすると、それは次のようなことです。

「私たちはみんな同じ人間です。みんなが人として共にあることは、最悪な時ほど発揮されるものです。違いは肌の色だけです。」

アンドリュー・ミッセルさん(熊本大学、英国)



## 支援者よりのメッセージ

### ▶コムスタカーフの熊本地震での活動

コムスタカーフ外国人と共に生きる会は、2016年4月14日の熊本地震発生翌日の15日から、ホームページ上で、多言語による地震関連情報の発信、外国人向け避難所となった熊本国際交流会館での4月16日～30日までの炊き出し活動、被災外国人の個別相談など緊急救援活動に取組んできました。そして、5月以降の中長期の取組みとしては、①ホームページ上で10ヶ国語による地震関連多言語情報の提供、②外国人被災者へ、特にシングルマザーへの緊急融資、③外国人シングルマザー被災者へアンケート調査、④外国人被災者救援・支援活動の報告や課題についての広報・シンポジウム・セミナー・学習会の開催等の取組を、また、外国人被災者、そのなかでも、とくにDV被災者、生活困窮者やシングルマザー、刑事被告人の自立支援へむけた個別相談に取組んでいます。災害では想定外や行政が対応できない事態が続出します。熊本地震発生直後から被災者自らが救援活動に向けて臨機応変に対応することや多言語情報発信の重要さ、被災者のニーズと外部の支援者や支援物資の需給調整の困難さなど「災害時の多文化共生」の在り方を考え実践する貴重な場となりました。

中島 真一郎さん(コムスタカーフ外国人と共に生きる会)



### ▶九州地区地域国際化協会の防災連携による支援活動

私は、九州地区地域国際化協会の一員として、4月21日から3泊4日の日程で支援活動に従事しました。21日は、新幹線は不通、在来線の普通列車も何時に出発するのか不明の状態で、多くの列車を乗り継ぎながら北九州市から7時間かけてようやく熊本に到着しました。路面電車は開通していたものの、車窓を見ると、道路が亀裂で盛り上がりでて建物の壁が剥げ落ちたり塀が倒れていたりで、被害の様子が見て取れました。

現地では、主に避難所の巡回と多言語情報の収集・整理に当たりました。これまで、「多言語支援センター」についての認識はあったものの、実際の従事は初めてです。KIFのスタッフや多文化共生マネージャーの先輩方の指導をいただきながら、刻々と変化する状況に対応するという貴重な経験しただけでなく、多くの認識を改めさせられました。

北九州市は地震をはじめ自然灾害が比較的少ないと言われてきましたが、いつこのような災害が発生するかもしれない、そのためには早急に体制を整備しなければならないこと。また、外国人をはじめ様々な協力者や機関が関わって支援をされている様子を拝見し、平時からKIFの皆様が信頼関係を培ってこられた賜であると感じ、私たちもその活動を見習わねばということでした。

今回の支援活動に参加できたことに感謝するとともに、被災された全ての皆様が一刻も早く日常生活を取り戻すことができますようお祈りしております。

平城信明さん((公財)北九州国際交流協会)



### ▲熊本地震災害多言語支援センターの運営に携わって

今回の熊本地震に際して、NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会では、災害発生初期から熊本国際交流振興事業団(KIF)と連絡を取りながら、「熊本地震災害多言語支援センター」の運営のお手伝いをしていただきました。



2007年、新潟での災害多言語支援センターの活動以来、いくつかの災害時の活動や全国各地での災害時対応研修などに携わってきた私たちの目から見て、現実の被災状況下において、これほどまでに力を発揮できる国際交流協会があつたことに、驚きを隠せませんでした。

今回の熊本地震では、KIFの日頃からの多文化共生に対する意識の高さはもちろん、外国人の方々との信頼関係の深さ、そして自らも被災しながら支援活動に注力する職員の皆さん姿には心打たれるものがありました。これらKIFの活動は、今後の災害時の外国人支援を考える際のモデルとなるものであり、今回の活動に参加した私たち一人ひとりが各地域での多文化共生社会の推進に向けて、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

被災地熊本の一日も早い復興をお祈りとともに、私たちを受けいれてくださったKIFの皆様に感謝申し上げます。

高木 和彦さん  
(NPO法人 多文化共生マネージャー全国協議会 副代表理事)



### ▶地震時の地域日本語教室の役割

#### 一武藏ケ丘教室

今回の熊本地震では、防災の観点から地域日本語教室の役割を再確認することができました。武藏ケ丘教室では、16日の本震後直ぐに学習言語グループごとに連絡を取り合い安否確認や情報交換を行いました。当国際交流事業団から連絡した際には、既に参加者の安否確認ができてました。元々、参加者間のLINEグループがあり、今回は避難所や給水所の情報に加え、営業している食品店、ガソリンスタンド、温泉等の生活情報を、日本語能力の高い者が母語へ翻訳、全員が分かるよう伝えました。情報は、日本語支援ボランティアに加え、日本人と結婚している外国人も積極的に提供してくれました。日頃から教室外のイベントと一緒に参加したり、生活情報の交換をしたりと、災害時に外国人を孤立させない「つながり」が活かされました。

武藏ケ丘教室の他でも、学習者とボランティア間の助け合いが行われました。例えば、学習者がどこに避難すれば良いかわからず不安な思いをしていた時、同じ地域に住むボランティアと連絡を取り合い、一緒に車中泊したケースがありました。

日本人も外国人も同じ地域の住民として助け合い協力することで、非常事態を乗り越えることができ、地域日本語教室の存在意義、そして顔の見える関係作りの重要性を再認識できました。

村上百合香さん(熊本国際交流振興事業団)

## 被災外国人の悩みに対応



熊本市国際交流会館、あす相談会予定

**行政用語・手続き「言葉の壁」**

言葉や文化、慣習の違いから災害被災者にならざる外国人被災者。一方の立場で熊本市国際交流会館（中央区）は震災の災害で困窮する人々のつわりにになってあげたい、たれど、その二つは多分わからない。実際に被災した被災者へ見て見えた課題も和解に貢献した。右は「言葉の壁」

**英語の情報「反響大」**

学園大准教授、フェイスブック

熊本大学のカースト、外国人教員をメンバーにして、外国人教員研究会が発足。技術革新生もいた。中国のさんはまだに英語、同窓会の活動から日本語をもとにした翻訳工作で活躍した。日本人は英語で書かれた「地震対応会議」の開催に名前回りで参加した。また、「日本へは間違ひがある」と書いたり、日本人が名前回りで開催された。

朝日新聞(2016年6月7日朝刊)

読売新聞(2016年7月8日朝刊)

## 被災外国人 避難所生活

### 熊本市 支援奮起の姿も



### 外国人への救援活動紹介

#### 熊本地震での課題など報告



熊本地震で被災した外国人の支援について報告されたシンポジウム

熊本地震では本震のあっただけで外国人を中心とする約300人の避難者が受け入れられ、震災によっては多くの被災者の支援を行っている。多くの被災者の支援を行っている。この活動の主な支援団体は、国際交流振興事業団の「言葉の壁」、熊本中央国際交流会館の「言葉の壁」、熊本中央地区の「言葉の壁」などである。

震災では、震災の際に大きな被害を受けた外国人は、震災後も日々の生活を支えるために、多くの被災者の支援を行っている。この活動の主な支援団体は、国際交流振興事業団の「言葉の壁」、熊本中央地区の「言葉の壁」などである。

震災では、震災の際に大きな被害を受けた外国人は、震災後も日々の生活を支えるために、多くの被災者の支援を行っている。この活動の主な支援団体は、国際交流振興事業団の「言葉の壁」、熊本中央地区の「言葉の壁」などである。

震災では、震災の際に大きな被害を受けた外国人は、震災後も日々の生活を支えるために、多くの被災者の支援を行っている。この活動の主な支援団体は、国際交流振興事業団の「言葉の壁」、熊本中央地区の「言葉の壁」などである。

21 熊本日日新聞 平成28年(2016年)6月28日 火曜日

### この人に聞く

#### 熊本地震

### 外国人被災者支援 備えは?



○やまだひろみつ 熊本市中央区出身。青山学院大学卒業後、商社に勤務。1997年4月から国際交流振興事業団企画部企画係長。

### コミュニティーとの連携を

○やまだひろみつ 熊本市中央区出身。青山学院大学卒業後、商社に勤務。1997年4月から国際交流振興事業団企画部企画係長。

熊本日日新聞(2016年6月28日朝刊)

被災者支援を通して  
それぞれ感じる思い

### 手続きの用語難解

#### 事業司実態調査へ情報共有が課題

### 地域と外国人が支え合う姿通じ 多文化共生社会のあり方を考える



熊本日日新聞(2016年10月30日)

### 被災外国人 言葉の壁



#### 熊本地震

#### 外国人に分かりやすい言葉の壁

#### 被災体験語る

#### 言葉に不安 支援訴え

被災体験語る

被災体験語る